

平成 20 年度 第 2 回 海洋開発委員会 議事録（案）

日時：平成 21 年 2 月 26 日（木）13:00～15:30

場所：土木学会講堂

出席者：高橋委員長、関本幹事長、諫山、川上、黒坂、小島、小峰、辻、永井、西、堀田、宮川、黒川（宮本委員の代理）の各委員、大塚、木村、五明、柵頼、古川、矢内の各委員兼幹事、伊藤、鈴木、武田、森屋の各幹事

欠席者：佐伯、酒匂、高山の各顧問、秋山、宇多、遠藤、沖、清宮、清水、諏訪、泊、中原、中村（孝）、中村（眞）、前野、三上の各委員、佐々木、多田、東江、水谷の各委員兼幹事、中村（謙）、松田の各特別委員、加藤、田島の各幹事

配付資料：

資料-0：土木学会海洋開発委員会 平成 20 年度 第 2 回委員会 次第

資料-1：平成 20 年度 第 1 回 海洋開発委員会 議事録（案）

資料-2：第 33 回海洋開発シンポジウムのまとめ

資料-3-1：第 34 回海洋開発シンポジウム 会場について

資料-3-2：第 34 回海洋開発シンポジウム 関連行事

資料-3-3：第 34 回海洋開発シンポジウム 特別セッション S-1 島しょ・離島海域の保全・開発・資源利用

資料-3-4：海洋開発特別講演会 in 横浜

資料-3-5：第 34 回海洋開発シンポジウム 論文投稿状況について

資料-4-1：第 35 回海洋開発シンポジウム会場候補（鹿児島）

資料-4-2：海洋開発シンポジウム鹿児島開催 会場シミュレーション

資料-5：平成 19 年度 調査研究委員会の活動度評価の結果について（報告）

資料-6-1：特別セッションのテーマについて

資料-6-2-1：外界水導入システム研究小委員会

資料-6-2-1：平成 20 年度第 1 回外界水導入システム研究小委員会議事録案

資料-6-3：沿岸防災施設のアセットマネジメント研究小委員会 活動報告

資料-6-4：平成 20 年度順応的管理研究小委員会活動報告

資料-7：平成 21 年度の活動予定

資料-8：土木学会論文集改革の基本方針と実施手順

討議内容

1. 高橋委員長挨拶

日頃からの委員会活動に協力いただき感謝する。次回のシンポジウムは、関東地方整備局の協力の下で横浜市で開催する予定であり、過去最高の論文の応募があった。シンポジ

ウム等の活動を通じて、海洋開発分野のイノベーションやプロジェクトにつながる研究を活性化させていきたい。そのためにも各委員からの協力を賜りたい旨の挨拶があった。

2. 新任委員の紹介および自己紹介

新任として港湾局振興課長の宮本氏が委員となった。代理の黒川氏から挨拶があった。

3. 前回議事録の確認

議事録は各自確認いただき、加筆修正等あれば幹事長に連絡することとなった。

4. 第 33 回海洋開発シンポジウムのまとめ

資料-2 により、過去 2 番目の参加者数、217 編の論文数は過去最多、論文集は 350 部印刷し 254 部販売した旨説明があった。多少ではあるが今後も現地販売を続けていく。

5. 第 34 回海洋開発シンポジウムについて（資料-3-5）

資料-3-1 により、次回のシンポジウムの日程、会場の説明があった。

資料-3-2 により、次回のシンポジウムの見学会、海の移動教室の説明があった。見学会は、横浜市と関東地方整備局の協力を得て、6 月 30 日に東京国際空港再拡張事業と横浜港南本牧地区国際コンテナターミナルを見学する。海の移動教室は 6 月 28 日に小中学校の先生を対象に見学会と説明会を行うことを検討中であり、教育委員会には協力依頼済みである。

また、懇親会は 6 月 29 日 18 時 30 分から 1 時間半の横浜港クルージングを計画している。

資料-3-3 により、特別セッション S-1 島しょ・離島海域の保全・開発・資源利用について説明があった。オーガナイザーを東海大学の山田先生とし、海洋基本法を踏まえ、離島保全・振興に学術・技術的な面からの貢献を目的に 2 年間の予定で特別セッションを行う。

また、特別セッション S-2 海洋エネルギーは 2 年目であり、一般から 8 編の論文の投稿があった。特別セッションの前にセッションを一つ作ることも考えている。

資料-3-4 により、海洋開発特別講演会についての説明があった。資料に記載はないが、横浜市港湾局より 30 分程度で横浜港の開発状況の話題が追加される。詳しい案内ができたから各委員へ送付するので、各委員のネットワークを通じてアナウンスをお願いしたい。

資料-3-5 により、論文投稿状況についての説明があった。投稿数が多いので、査読委員を増やして対応した。資料記載の流れで対応していく。

査読の本数が多くて負担が大きいとの意見があった。査読委員をあまり増やすと質の低下の問題もあるため、いただいた意見を踏まえ、編集小委員会や幹事会等で継続的に議論していくこととする。また、査読のタイムスケジュールや土木学会論文集の査読システムとの関係も議論していく。

6. 第 35 回海洋開発シンポジウムの候補地について

資料-4-1 および資料-4-2 により、次回候補地を鹿児島とすることについて説明があった。鹿児島大学の浅野先生の協力を得られること、シンポジウム会場候補場所、懇親会候補場所、それらを踏まえた予算のシミュレーション結果（約 40 万円ではほぼ例年通り）との状況を踏まえ、次回候補地は鹿児島で正式決定とする。

7. 平成 19 年度 調査研究委員会の活動度評価

資料-5 により、平成 19 年度の海洋開発委員会の活動度評価結果についての説明があった。これまでの B 評価から A 評価となった。これにより多少ではあるが来年度の予算が増える。

8. 平成 20 年度小委員会・WG の活動報告

資料-6-1 により、改革小委員会から説明があった。イノベーションを起こすための活動として、特別セッションを核に位置づけており、その発展として小委員会活動につなげていく。特別セッションを行う前段階として、我々が勉強するために特別講演会を位置づけている。特別講演会と特別セッションの種を探している。

テーマはまだ未定であるが、今年も海洋開発特別講演会を 1 回開催したい。また、次の特別セッションのテーマについて、以下の意見があった。

- ・ 沿岸の観光を利用して地域の活性化につなげていくという動きもあるので、観光は取り上げてもらいたい。
- ・ 教育については、海洋基本法でも述べられているが、具体的なものがない。大学としても協力できるので、やっていきたい。
- ・ 環境系として、統合沿岸域管理の観点でモニタリングが行われているが、調査結果をどう利用していくかという観点での方向が見えない。学会として、大局からの議論としてはどうか。
- ・ 島しょでは、地球温暖化による水位上昇が問題になる。現在企画中の島しょのテーマに環境を絡めると、次につながるのではないか。今年の特別セッションの中で、三宅島の亜熱帯化の議論をするので、それを来年の特別セッションでも取り上げていきたい。
- ・ ビーチゾーンの安全の担保が問題である。レクリエーションが多様化する中で、海上保安庁は沖合が管轄であり、消防は海岸に入るところまでが管轄となると、海岸の管轄する組織がない。年間を通じた海洋に関する安全教育も大切である。
- ・ 海洋教育を何から始めるかというところ、一つは安全教育であり、もう一つは環境教育である。臨海学校が行われなくなってきたという現状もあり、子どもが海に遊びに来ないことは問題である。
- ・ 海洋基本法に海洋産業の創出が述べられているが、こういった産業を作っていくべきか、そのためにこういった教育を行うかというところの議論を深めていく必要がある。

次の特別セッションのテーマについては、次回の委員会でも公式に議論する。また、来年の論文募集までに決めたいので、随時意見を募集する。

資料 6-2-1 および資料 6-2-2 により、外界水導入システム研究小委員会の活動報告があった。事業化という視点が大切であり、そのあたりの検討も行って欲しい。また、フィージビリティスタディーを具体的に行っていくことで、鉄鋼連盟からのサポートも得られやすくなるので、早い段階で検討してほしいという意見があった。

資料 6-3 により、沿岸防災施設のアセットマネジメント研究小委員会の活動報告があった。もう少し外部の人への門戸を広げることも検討してはどうかとの意見があった。

資料 6-4 により、順応的管理研究小委員会の活動報告があった。委員会とし国際的な活動が弱いという指摘を受ける中で、この小委員会の活動の役割は大きいとの意見があった。

9. 平成 21 年度の活動予定

資料-7 により、平成 21 年度の活動予定についての説明があった。委員会は 3 回、5 月の第 3 回目には委員長の改選を行う。プロジェクトの創出に向けた取り組みの中で、埋立浚渫協会との連携を調整中である。

日本海洋工学会への協力として、2009 年 8 月 6～7 日に予定されている海洋工学シンポジウムのオーガナイズドセッションとして、海岸工学委員会と共同で港空研の平石氏をオーガナイザーとした「津波・高潮防災（仮題）」をエントリーした。

10. その他

資料-8 により、土木学会論文集改革の基本方針と実施手順についての説明があった。土木学会論文集と委員会論文集の 2 重化の解消と国際化対応のための論文集の英文化の 2 つの問題に対処するため、コストの問題も考慮し、論文集全体の再構成という方向になっている。具体的などころは何も決まっていないが、大枠は資料に記述の方向性となる。